

# プラット ニユース

vol. 11



TOYOHASHI  
ARTS  
THEATRE  
PLAT

豊橋文化振興財団  
豊橋市豊橋三丁目1番1号  
TEL: 0532-22-1111 FAX: 0532-22-1112

# 2015、PLATが贈る新企画〈ダンス・スペース〉第1弾 平山素子『POISON〜シェイクスピアを喰らう〜』

2015年1月31日・2月1日 PLATアートスペース

## 平山素子 × 中島晴美

[演出・振付・出演]

[芸術文化プロデューサー]

デスクの上には松岡和子訳のシェイクスピア作品が数冊と、分厚い原書。

今、平山素子さんが取り組むのは

PLATオリジナル企画によるシェイクスピア。

数度のリハーサルを重ねるなか、

そこに込めるものをおおいに語っていただきました。

撮影・谷古宇正彦

## 身体は 彼の言葉以上に 饒舌か？



### シェイクスピアの哲学ウィルスが ゆっくり身体に入っていく

中島●タイトルの「喰らう」が強烈です。この言葉はどう生まれたのでしょうか。

平山●うーん。たとえば月蝕とか、じわじわと浸食していくような感じが、もともと好きで。いつか使ってみたいキーワードでした。この分厚い原書を読んでいると、膨大な言葉の渦、まるで「シェイクスピアの哲学」ウィルスがゆっくり身体の中に入り込んでいくような感覚になるんです。彼の言葉によっても、その感じ方が変化していく。この私自身のありさまも主題にできたらと思っています。

中島●今まで関わった、あるいは、好きな作品はありますか。

平山●オフィーリアやジュリエットなど、ヒロイン像はいくつか演ずる機会がありました。これはこれでやりがいはあったのですが、私が気になるのはほんの小さなこと、登場人物ではなくて、そこに介在してくる見えない魔物だったり、何か説明のつかない出来事であったりなんです。例えば『マクベス』の冒頭の、3人の魔女の「きれい、汚い、汚いはきれい」も惹かれる言葉です。物事を反対から急にチェンジするような、一本調子の矢印じゃなくて、刷り込んでいくような、繰り返されていくような流れがやってみたい。3人の魔女は…もう絶対やりますね！

中島●『マクベス』には魔女の親分、ヘカティも登場するんですよ、だから魔女は4人。

平山●じゃあ、マクベスは途中から女装してもらって魔女になれるかな。何か身につけることで、男性にも女性にも一瞬で変身できるようなことも考えています。

中島●平山さんには男性にも女性にも行き来できる資質が備わっていると、初めてお会いしたときから感じていましたよ。

平山●そういえば男役、女役の両方をやったことがありました。赤いドレスと黒いパンツスーツで、ちょっと不思議な立場でした。私の武器になるかしら？

中島●外国語では言語に男女の違いはありませんからね。感情にも差はない。

平山●現代ダンスはジェンダーフリーの時代のもので、男女の役割を分担して…なんていうことにとらわれない。女が男をリフトしたりして、体力的にも「普通」に平等です。



『After the lunar eclipse / 月食のあと』リ・クリエイション (2011年) 撮影:池上直哉

中島●ダンスはもっとも先進的なポジションにいますよね。

平山●シェイクスピアは言葉を操る天才ですから言葉を使わずにどこで表すの？と思われるでしょうが、言葉の裏側にある複雑な現象は、むしろ体の記号でしか現れていないのではないかと。体がしっかりできていないと、言葉を発したときに裏付けのない、上滑りしたように感じるんです。ダンサーが研ぎ澄ましてきた身体の磁力のようなものが、言葉を想起させる新鮮で力強いメッセージになり、観客の感覚的な部分を目覚めさせるきっかけになるといいなと思っています。

## POISON—— 毒は人生に効いてくる

中島●チラシの言葉、「極上の毒」も胸に響きます。

平山●毒って、いい毒もあれば悪い毒もある。「毒」とは「身体に効く」という意味なので、決して悪いものではない。この先の私の人生で、そういうもの、私はこれと出会う必要があったと思えるものになってほしいという期待もありますね。それほどの強い刺激となって、ボディすらもチェンジしていくような瞬間が生まれたら素晴らしいって。

中島●すでにシェイクスピアの毒が回りますね(笑)。

平山●はい。ただ今ゆっくりと感染中です。ストーリーだけを読み解かなくても、も

ともと自分が興味を持っていた体験と照らし合わせてシェイクスピアを解釈できると気が付き、面白さに引き込まれました。このことで思い出したんですが、私が踊ったもので『死の舞踏』という、眠りに落ちることを拒む女性がコンセプトの作品があります。1999年のものですが、眠りに落ちて目覚めなかったら、それは「死」。すごく気持ちのいい瞬間だけれど、死神が近づく怖いことでもある——という仮説のもとに、ベッド周りで、眠らないように、眠らないようにする踊りを繰り返す、といったものでした。それから、2007年に新国立劇場で発表した『un/sleepless』。「眠れないこともない？」という造語ですけど、この作品で繰り返させたのは、記憶の連鎖。物事が断片的に進む、説明できない不思議な体験がじわじわと入り込んでいくうちに夢となる、といったものでした。今、シェイクスピアに取り組む私は、結局、ストーリーを選ばず、感覚の断片を拾い集めている。むしろ感染したくて身を差し出しているような感じでしょうか。

## 小さい光から、体験したことのない 出会いが起きるといい

中島●今回の出演者は平山さんが選ばれましたが、これはひらめき？

平山●気になっていた方に声をかけるチャンスが巡ってきました。そういった意味では狙いを定めて？ 狩りました。ふふふ。芯はあるけど適応力に優れ、いかようにでも変化してくるタイプの方に出演をお願いしています。私の価値観ですら裏切ってくれるタイプの人がいたら、自分のボディがどう反応するか。そういうトライアルも一つの目標です。彼らの存在によってこれまでの私の作品とどのように味わいが変わっていくか、勝負です。

中島●平山さんが目指すものはすごく高い位置にある。それがパートナーたちに伝播して素子ペースに引き込む。そんな魔力がありますね。

平山●う～ん、しつこいのかな。自分でもわからないけれど冒険したくて……。いつ

も出演メンバーには感謝ばかりです。でも特殊な体験を一緒にした人と、また特殊なことをしたいかっていうと、少し違って。同じことでも違う方と探り合うと変わったエナジーが出て、新しい発見がある。相手も私とかかわったことで、新しい展開が拓く瞬間を見出してくれているなら、一番嬉しい。もちろん、観客も含めて関わったすべての人ですよ。あ、「しつこい」に加えて、「欲ばり」なんですね。

中島●シェイクスピアを知らなくても、難しいと思っても、知らず知らずに想像していく。中・高校生にも観てほしいですね。

平山●いつも心がけていることがあります。わかりやすく説明するのではなく、その時がいつか来ると期待する。それこそ毒を注入するみたいにじわじわと効き目が来るのがいいのかなって。シェイクスピアはあらゆる人が手を付けていて、やりつくされているようだけれど、小さい光みたいなものに注目して観ていくと、それに気付く喜びを味わうことができると思う。若い方々も食わず嫌いをせずに。いつも食べてきたようで……

食べたことがないような、不思議な食感との出会いが起きるといいですよ。ダンスは体から発するサインをダイレクトにキャッチできる、人間の創り出した宝なんです。中島●今回も、昨年のショーイングと同じアートスペースでの新たな挑戦です。

平山●昨年使わせていただいたとき、多彩な可能性のあるスペースだと思いました。いろんな形で多くの方が利用する不思議な、まさにアートなスペース。贅沢ですよ。限られた宇宙で異なる体験ができる、劇場の醍醐味です。

中島●「ダンス・スペース」っていうタイトルも宇宙をイメージしているので、ぜひ「素子スペース」を生み出してください。

〔ひらやまもとこ〕愛知県出身。静謐さと昂揚を自在に奏でるダンサーとして観客の熱い支持を集め、近年は振付家として活躍の場を広げている。06年ポリショイ劇場/バレエ団にて『Revelation』をS・ザハロワに提供、新国立劇場公演07年『Life Casting-型取られる生命-』で朝日舞台芸術賞、08年『春の祭典』で芸術選奨文部科学大臣新人賞、江口隆哉賞を受賞。ソロ活動としても国内外のアートフェスティバルで作品発表を行う一方、シンクロナイズドスイミングやフィギュアスケートの日本代表選手の指導を手がける等活動は多岐にわたる。筑波大学体育系准教授。

好評  
発売中

## ダンス・スペース 平山素子『POISON ~シェイクスピアを喰らう~』

- 演出・振付・出演=平山素子
- 出演=河内大和/竹内 梓/宮河愛一郎
- 日時=2015年1月31日[土] 14:00開演/2月1日[日] 14:00開演
- 会場=PLATアートスペース
- 料金=[全席指定]一般:3,000円 ほか

芸術文化プロデューサー  
中島晴美の稽古場ルポ

2015年1月10日・11日 PLAT主ホール

# 『海をゆく者』

## 初演から5年。もっと面白くなってやってくる。5人のダメ男たちのクリスマスファンタジー

新春にお届けするのは、アイルランド演劇をリードする気鋭の劇作家、1971年ダブリン生まれのコーナ・マクファーソンの傑作プレイ。「ローレンス・オリビエ賞」「トニー賞」の“BEST PLAY”等にノミネートされ、世界中で上演されてきた作品です。日本では、2009年にバルコ劇場で初演。今回、同じ演出家、キャスト、スタッフによる再演の運びとなりました。そこで、11月3日に東京・新宿村スタジオで行われた初日顔合わせと本読み稽古の様子を、インタビューを交えてお伝えします。

演出

# 栗山民也



午後4時。本読みスタートを前に、キャストやスタッフが何事か話し合ったり質問しあったりする姿がそこここで見られます。それをじっと見守るかのような表情の演出家・栗山民也さん。一方、翻訳家・小田島恒志さんの目の前のテーブルにはアイルランドで一番人気のウイスキー「パワーズ」が。そこへ、大谷亮介さんが少し遅れて到着。「許容範囲だね、このぐらいは」と、役のニッキーさながらに無邪気に言うと、「また、いい加減な……」と、周囲の俳優陣。空気がぐっと和みます。この雰囲気は本読み稽古にまで引き継がれ、とくに2幕では身振り手振りでのニッキーの熱演、アイヴァンという役にすっぴりはまっている浅野和之さんの細かい芝居に、笑いが絶えません。でも、観る側の私は、5人のオジサン(失礼!)の男臭くも少年のような会話に、時折、胸が熱くなったのです。終了後はもちろん、みんなで「パワーズ」。お湯割りでほっこり、稽古場はすっかり真冬のダブリンです。

### 稽古の合間に、翻訳家・小田島恒志さんにインタビュー。なぜ、「海をゆく者」?

中島●タイトルの由来が気になります。  
小田島●それ、プレトークで話す予定なだけ。少しだけ言うと、原語の『Seafarer』って、有名な古英詩なんです。海でひどい目に遭っている苦勞を、陸で安穩と暮らしている奴らは知らないんだってぼやく詩。それがシャーキーの心情に重なる。  
中島●悪魔のロックハートは、自在に壁を通り抜けて、あっちの世界、こっちの世界を行き来する。  
小田島●彼のセリフに「壁の穴へ行く」って



いうのがあるんだけど、イギリスやアイルランドでは、キャッシングマシーンが屋外の壁に設置されていて、「壁の穴」と呼ばれている。だから、2つの意味に取れるんです。  
中島●この夏、アイルランドへ行かれたとか。  
小田島●シャーキーの立ち寄ったバブとかロックハートが飲んでたホテルを見てきました。もっと殺伐とした町を想像してただけ。制服を着た学童たちが歩いていたりして、ここなら住んでもいいな〜って思えるような住宅街でした。アイルランド人は「酒」と「賭け」が大好き。サラブレッド生産で有名な土地だから、競馬もそうだけど、何にでも賭ける。ポーカーは、クリスマスには恰好の楽しみなんじゃないかな。続きは、プレトークで。  
中島●はい。楽しみにしています。

〔おだしま・こうし〕翻訳家、英文学者。1962年生まれ。早稲田大学大学院博士課程、ロンドン大学大学院修士(MA)課程修了。早稲田大学教授。1996年度湯浅芳子賞受賞。主な翻訳作品に、『コペンハーゲン』(マイケル・ブレイン)、『欲望という名の電車』(テネシー・ウィリアムズ)、『ビッグマリオン』(バーナード・ショー)など。このほか、『シェイクスピアについて僕らが知りたすすべてのこと』(ビル・ブライソン)、『エミリーへの手紙』(キャムロン・ライト)などがある。

# ダブリンに見た、酔っ払った妖精たちのいる風景

## 人間って、 もっと無駄のある存在

中島●本読みの印象は、初演のときとかなり違って、栗山さんが惹かれる理由がわかる気がしました。

栗山●この戯曲のまず初めの印象は、ある劇作家が書いた劇文学では決してなかったんですね。5人の異常なバイタリティーのある男たち、それもアル中の初老の5人が自分の欲望をさらけ出して、それですーっと時間を埋めていく。本当のリアルな生活をテーブルにおさめて、それを起こしたよ

うな戯曲であって、僕の仕事は、それを逆に再現していくっていうかな。

劇作家はね、キャラクターがあつて物語を積み上げていくから、どうしても理屈が必要になる。だけど、そういうことではないんだってことを、この芝居は教えてくれるわけだ。だから、今回はもっともっと全体を荒唐無稽な流れにしようと思う。アル中のおじさんたちのファンタジーがいいんだな。

「近代演劇の父」と言われるイブセン以降、劇作家たちは社会のためにどう演劇が役立つ

かって、そればかり言っていたけど、そうじゃない。人間って、もっと無駄があつて、その無駄がずーっと積み重なると、思わぬところにポンと人生のテーマみたいなものがこぼれるように見えてくる。実は、そんな戯曲なんだよね。

要は、無駄な時間や場所が必要ってことだよ。アイランドはベケットが生まれた国で、だからゴドーを待っているんだ、この5人がね。それを言葉で直接表現しないところがまさに現代演劇で、明日の幸せは何なんだみたいなことは、誰も言わない。一切言わずに、一杯の酒をどうやって獲得するかってことばかりやっている。

これは悪魔の言葉なんだけど、実は5人も癒されぬ魂の持ち主なんだよね。理屈で言っちゃうと嘘だらけの芝居なんだけど、そんなの関係ないっていうか、そんなことよりも、そこに5人が集まるっていう事が大切だ。いつもなら、みんなチリジリバラバラに生活している。クリスマスだから

こそ、至福の時間。この一夜を、覗き見するかのような楽しさだよ。

## 「醜」を突き詰めれば、 「美」が表れる。

中島●作家は若いときにこれを書いた。

栗山●そう。だから、若い作家がもっている子どもの感覚ね、それをそのままおじさんたちに反映させているっていうか。僕、ダブリンに行って、パブを何軒もはしごしたんだけど、そこで見るのは、本当に酔っ払った妖精のおじいちゃんたちの風景。

中島●とくに意味なく、「このガキが騒いでいる」というようなセリフがあつて、もしかしたら作家たちが勝手に騒いでいるというような、逆の視線なのかなと。

栗山●だから、外側の世界だよ。

中島●それで、どこか汚れていない部分をすごく感じたんですよ。「悪魔に魂を売る」というような童話に出てくる言葉が違和感なく入ってきて、若い作家のファンタジーだつて。

栗山●アル中たちのファンタジーね。そこがすごく大事で。ロックハートも悪魔にどこかなりきれいでない。それで、実はものすごく天国に憧れている。だけど犯罪を犯したのだから、地獄に行かなきゃならない。みんなどこか中途半端で、とても可笑しい。

中島●俳優陣のなかから「前にやったときから、ずっと引っかかっていたことがある」と、質問が出ました。皆さん、5年間、引っかかりを忘れなかった。

栗山●僕も、すごく汚い、汚辱にまみれたような物語なんだなあっていう印象があつたんだけど、久しぶりに本読みを聞いて、ものすごく透明なものを感じた。神がウンコに宿るみたいな(笑)、つまり、「美しい」

## 『海をゆく者』

- 作=コナー・マクファーン
- 訳=小田島恒志
- 演出=栗山民也
- 出演=小日向文世/吉田鋼太郎  
浅野和之/大谷亮介/平田 満
- 日時=2015年1月10日[土]14:00開演  
11日[日]14:00開演
- 会場=PLAT主ホール
- 料金=[全席指定]S席:7,500円  
1階パルコニー席:6,500円  
A席:5,000円 ほか

好評  
発売中

と「醜い」が同居した世界で、じゃあ作者はどっちを選択するかっていうと、醜い方なんだよね。だけど、醜いところをたどっていくと、実は、ものすごい美しいものが見えてくる、その逆転の面白さなんだね。

中島●『マクベス』の魔女の「きれいは汚い、汚いはきれい」。

栗山●みんなそうだよ。人間、あるいは世界を描くときの必然みたいなもので、一番大事な核だよ。きらびやかな劇場できらびやかな作品をいっぱいやっていて、それを美しいとみんな思っている。だけど人間って、世界ってそれだけじゃないんだって提示の仕方だよ。

この5人の喋る言葉って、コンピュータに答えを求めている社会からは出てこない。そんな言葉に出会う久しぶりな感覚というか、動物的な体臭が匂う。だから、客席の人たちが、いつか自分たちの姿なんだなって共感して、何時間かの芝居を通して、「ちょっとだけ、前よりも幸せな時間が持てた」といった感覚の芝居なんだね。難しいことはなんにも言っていない。だけどいつの間にか何かが積み上がっていて、やっぱり人間っていいんだなあって思える。すごい貴重だよ。大事な芝居だと思うな。

中島●私も、本読みを聞いただけで、絶対に観ていただきたい作品だと思います。ありがとうございました。

[11月5日 銀河劇場にて]

[くりやま・たみや] 1953年生まれ。早稲田大学文学部演劇学科卒業。主な演出作品に『ゴドーを待ちながら』『阿国』『獅子を飼う』『GHETTO/ゲットー』『海の沸点』『かもめ』など。紀伊国屋演劇賞個人賞、読売演劇大賞優秀演出家賞、芸術選奨文部大臣新人賞、毎日芸術賞千田是也賞、朝日舞台芸術賞、芸術選奨文部科学大臣賞、紫綬褒章などを受賞。2000年から7シーズン新国立劇場演劇芸術監督を務め、現在は新国立劇場演劇研修所長。

## プレトーク

### 『翻訳家に聞いてみよう』 参加者募集

翻訳家の小田島恒志さんをお招きしてプレトークを開催いたします。チケットの有無を問わず、興味のある方ならどなたでも参加可能です。

- 日時=2015年1月9日[金]18:30より
- 会場=PLATアートスペース
- 出演=小田島恒志[翻訳家]
- 参加費=[要申込・定員制]無料

申込方法=プラットチケットセンター(0532-39-3090)までお問合せください。

好評  
受付中

特別寄稿

# 『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』と 清水邦夫の劇世界

扇田昭彦 〔演劇評論家〕



扇田昭彦



さいたまゴールド・シアター公演『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』(2014年) 撮影:宮川舞子

清水邦夫(1936年生まれ)は現代の日本を代表する劇作家の一人で、その戯曲数は50本を越える。『明日そこに花を挿そうよ』『狂人なおもて往生をとぐ』『楽屋』『火のようにさみしい姉がいて』『わが魂は輝く水なり』『タンゴ・冬の終わりに』『哄笑』などの代表作は、わが国の現代演劇の宝と言っていい。

清水邦夫の劇は多彩で、作品の傾向を一口で要約するのは難しいのだが、彼自身が率いた木冬社(1976年結成)で上演した作品は、危機的状態にある家族、兄弟、夫婦などを、記憶喪失、心の病などを交えて趣向豊かに描く作品が多い。その限りでは、清水は暗い叙情が漂う室内劇の書き

手、とすることができる。

だが、清水の劇作には、この形容に当てはまらない作品群もある。1960年代末から70年代前半にかけ、清水が同世代の演出家・蜷川幸雄(1935年生まれ)と組んで書いた、若者たちの過激な闘争をストレートに描いた一連の戯曲である。

1969年、蜷川が率いる劇団現代人劇場が初演した『真情あふるる軽薄さ』を皮切りに、『思い出の日本一万年』『ぼくらが非情の大河をくだる時』など5本の戯曲が上演され、当時の若い観客に強い衝撃と感動を与えた。私もこれらの舞台に心を動かされた一人だった。

このころ、蜷川と現代人劇場の俳

優たちは同世代の若者たちの反体制運動に強い共感を寄せていた。そうした蜷川らの切実な思いに連動する形で、清水はそれまでの彼の資質とはかなり違う、過激な群像劇を次々に書いたのである。

この時期の2人の「同志」感覚を元に、清水はその後、蜷川演出のために『雨の夏、三十人のジュリエットが還ってきた』(82年)、『タンゴ・冬の終わりに』(84年)などの作品を執筆することになる。

今回、蜷川が率いる熟年世代の劇団「さいたまゴールド・シアター」が、香港公演、パリ公演の後、穂の国とよはし芸術劇場で上演する『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』も、1971年に



さいたまゴールド・シアター公演『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』(2014年) 撮影:宮川舞子

現代人劇場が蜷川演出で初演した作品である。

これは公安事件で逮捕された青年2人の公判が行われている裁判所に、爆弾を手にした老女たちの群れが乱入して法廷を占拠し、判事、検事を裁判にかけ、という意表をつく展開の物語。豪快で戦闘的なこの老女たちの姿には、当時、成田空港建設反対の運動をしぶとく続けていた千葉県・三里塚の農民たちの姿が投影されている。

現在の目でこの舞台を見ると、社会変革への情熱が渦巻いていた1960年代から70年代にかけての熱い時代が、変革へのうねりが静まった現在の日本社会を激しく叱咤し、アジテートしているようにも見える。

初演の時、この老女たちの役は真山知子、石橋蓮司、鶴田忍、石井愼一らの若い俳優たちが演じた。特にリーダー格の「鴉婆」を演じた緑魔子の演技は鮮烈だった。

だが、今回のさいたまゴールド・シアターの公演では、役の年齢に近い中高年の女優たちが老女役を演じて、さいたまネクスト・シアターの若手俳優たちと共演する。蜷川自身も初演から40数年後、熟年の俳優たちを率いて、しかも国内だけでなく、海外でもこの劇を上演するとは思ってもみなかったに違いない。

2015年3月には、やはり清水邦夫の『狂人なおもて往生をとぐ』(東京芸

術劇場制作、熊林弘高演出)が穂の国とよはし芸術劇場で上演されるが、これは1969年に劇団俳優座が初演(西木一夫演出)して大きな反響を得た秀作である。大胆で奇抜な趣向を凝らした家族劇で、大学教授一家の崩壊を、喜劇色を交えて描く。

両親と息子2人、娘1人が暮らす中流家庭。だが、デモに出かけて頭を棍棒で殴られたことで頭に変調をきたした長男はなぜか、自宅を娼婦の館と思込み、母と妹は娼婦で、父と弟は女の客と考えている。長男の妄想に合わせて娼婦と客の演技(ゲーム)をする家族たち。だが、彼らが正常に戻るために新しいゲームを始めたことで、家族の歯車はさらに狂っていく。

清水の劇にはこうした演技のゲームや“ごっこ遊び”がしばしば登場する。特にこの初期の『狂人なおもて』では、そのゲームはきらきらした若い才気と遠慮のない批判精神にあふれ

ていた。

それから20数年後の1992年に、木冬社が初演した『冬の馬』にも、初老の男女たちがまるで「家族」であるかのような演技をする場面が登場した。だが、そのゲームは細やかで、静かな孤独感が漂い、切々と胸に迫った。私はそこに清水邦夫の家族劇の見事な成熟を感じたのである。

[しみずくにお]1936年新潟県生まれ。早稲田大学在学中に処女戯曲「署名人」を発表、テアトロ演劇賞、早稲田演劇賞を受賞し脚光を浴びる。69年蜷川幸雄の演出作「真情あふるる軽薄さ」が大きな反響を呼び、以後現代人劇場、櫻社の座付き作家として、若い世代を中心に圧倒的な支持を得た。櫻社解散後は、妻・松本典子らと演劇企画グループ・木冬社を旗揚げ、2001年の解散まで作・演出をつとめた。74年『ほくらが非情の大河をくだる時』で岸田國士戯曲賞ほか受賞多数。

[せんだ・あきひこ]1940年、東京生まれ。元・朝日新聞学芸部編集委員。元・静岡文化芸術大学教授。現在、演劇評論家、日本演劇学会理事。『朝日新聞』『週刊朝日』『ミュージカル』『ダンスマガジン』にレギュラー執筆中。主な著書に『日本の現代演劇』(岩波新書)、『ミュージカルの時代』(キネマ旬報社)、『舞台は語る』(集英社新書)、『才能の森——現代演劇の創り手たち』(朝日選書)、『唐十郎の劇世界』(右文書院)、『蜷川幸雄の劇世界』(朝日新聞出版)、『井上ひさしの劇世界』(国書刊行会)など。

## さいたまゴールド・シアター 『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』

- 作=清水邦夫 ● 演出=蜷川幸雄
- 日時=2014年12月20日[土] 14:00開演/21日[日] 14:00開演
- 会場=PLAT主ホール ● 料金=[全席指定] S席:4,000円/A席:3,000円 ほか

## 『狂人なおもて往生をとぐ~昔、僕達は愛した~』

- 作=清水邦夫 ● 演出=熊林弘高 ● ドラマター=木内宏昌
- 出演=福士誠治、緒川たまき、門脇 麦、葉山奨之、鷲尾真知子、中嶋しゅう
- 日時=2015年3月1日[日] 14:00開演 ● 会場=PLAT主ホール
- 料金=[全席指定] S席:5,500円/1階バルコニー席:4,500円/A席:3,000円 ほか
- チケット販売=会員先行:11月29日[土] 一般発売:12月13日[土]

好評  
発売中

2014  
12/12 FRI — 14 SUN

好評発売中

### てがみ座『汽水域』

- 脚本=長田育恵 ●演出=扇田拓也
- 出演=石村みか/福田温子/箱田暁史 ほか
- 日時=12月12日[金]19:00開演/13日[土]14:00開演  
14日[日]14:00開演
- 会場=PLATアートスペース ●料金=[全席指定]一般:3,600円 ほか

12/14 SUN

好評発売中

ライブポートとよはし開館20周年記念コンサート

### 仲道郁代&横山幸雄 ピアノ・デュオ

- 出演=仲道郁代/横山幸雄
- 日時=12月14日[日]16:00開演
- 料金=[全席指定]S席:4,000円  
A席:3,000円/ユースチケット  
[24歳以下]S席:2,000円/A席:  
1,500円
- 会場=ライブポートとよはし  
コンサートホール



仲道郁代  
©Kiyotaka Saito



横山幸雄  
©引田匡史

12/20 SAT — 21 SUN

好評発売中

さいたまゴールドシアター

### 『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』

- 作=清水邦夫 ●演出=蜷川幸雄
- 日時=12月20日[土]14:00開演/21日[日]14:00開演
- 会場=PLAT主ホール
- 料金=[全席指定]S席:4,000円/A席:3,000円 ほか

※2015年1月10、11日PLAT主ホール『海をゆく者』との2公演セット券(S席)10,000円

2015

1/10 SAT — 11 SUN

好評発売中

### 『海をゆく者』

- 作=コナー・マクファーソン ●訳=小田島恒志 ●演出=栗山民也
- 出演=小日向文世/吉田鋼太郎/浅野和之/大谷亮介/平田 満
- 日時=2015年1月10日[土]14:00開演/11日[日]14:00開演
- 会場=PLAT主ホール
- 料金=[全席指定]S席:7,500円/1階バルコニー席:6,500円  
A席:5,000円 ほか

※12月20、21日PLAT主ホール『鴉よ、おれたちは弾丸をこめる』との2公演セット券(S席)10,000円

3/1 SUN

### 『狂人なおもて往生をとぐ〜昔、僕達は愛した〜』

会員先行=11月29日[土] 一般発売=12月13日[土]

- 作=清水邦夫 ●演出=熊林弘高 ●ドラマタージュ=木内宏昌
- 出演=福士誠治/緒川たまき/門脇 麦/葉山奨之  
鷲尾真知子/中嶋しゅう
- 日時=2015年3月1日[日]14:00開演 ●会場=PLAT主ホール
- 料金=[全席指定]S席:5,500円/1階バルコニー席:4,500円  
A席:3,000円 ほか

1/31 SAT — 2/1 SUN

好評発売中

ダンス・スペース

### 平山素子『POISON〜シェイクスピアを喰らう〜』

ダンスが未来を創造する。穂の国とよはし芸術劇場PLATが2015年新春に贈る新企画「ダンス・スペース」第一弾は、日本の舞踊界をリードする平山素子が、生誕450年を経た劇作家・シェイクスピアが残した言葉を基に、新たな世界を展開します。

- 演出・振付・出演=平山素子
- 出演=河内大和/竹内 梓/宮河愛一郎
- 日時=2015年1月31日[土]14:00開演  
2月1日[日]14:00開演
- ※各公演の終了後、平山素子ほか出演者によるトークあり
- 会場=PLATアートスペース
- 料金=[全席指定]一般:3,000円 ほか



平山素子

### 関連イベント

好評受付中

### 『ダンストークイベント&ミニショーイング』

- 出演=平山素子/河内大和/竹内 梓/宮河愛一郎
- 日時=12月24日[水]18:00~20:00 ●会場=PLAT創造活動室A
- 定員=30名 ●参加費=無料 ※チケットの有無を問わずご参加いただけます。
- 締切=定員に達し次第終了
- 申込方法=窓口またはFAX:参加申込書に必要事項を記入の上、プラット一階窓口またはFAX(0532-55-8192)まで。オンライン:劇場ホームページ専用申込フォームより、必要事項を記入して送信してください。

好評受付中

### 『平山素子ムーヴメントワークショップ』

平山素子の洗練された創造の世界、ムーヴメントを体験します。広い視野と多様なテクニック、そして創作極意を間近で体験しましょう!

- 講師=平山素子
- 日時=12月25日[木]11:00~14:00 ●会場=PLAT創造活動室A
- 対象=ダンス経験3年以上の方で、今後もダンスを続けていく意思のある方
- 定員=20名(定員を超えた場合は選考) ●参加費=1,000円
- 締切=12月7日[日]
- 申込方法=窓口またはFAX:参加申込書に必要事項を記入の上、プラット一階窓口またはFAX(0532-55-8192)まで。オンライン:劇場ホームページ専用申込フォームより、必要事項を記入して送信してください。

2/1 SUN

好評発売中

### 東京フィルハーモニー交響楽団演奏会

- 指揮=現田茂夫 ●ヴァイオリン=南 紫音
- 曲目=ベートーヴェン:『レオノーレ』序曲 第3番  
メンデルスゾーン:ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64  
ドヴォルザーク:交響曲第9番 ホ短調 作品95『新世界より』
- 日時=2015年2月1日[日]16:00開演
- 会場=ライブポートとよはし コンサートホール
- 料金=[全席指定]S席:4,500円/A席:3,000円  
ユースチケット[24歳以下]S席:2,200円/A席:1,500円



現田茂夫



南 紫音

©K.Miura

©Akito Koyama

東三河の若手音楽家育成コンサート  
**PLAT enjoy music!**

PICK UP!

ワンコインコンサートはじまります!

今春から動き始めた「PLAT enjoy music!」。オーディションを経て、いよいよ公演がはじまります。上手いだけではない、若さ溢れる感性で訴えかけてくる何かがある。そんなところがこのコンサートの魅力です。しかもワンコイン。とにかく聴いてみなくちゃはじまらない。片手に500円握り締め、お気軽にお越しください。

1/4 SUN

『trio FlaP New year Concert』

- 出演=trio FlaP(トリオ フラップ)  
加藤千理[フルート]/鷹松李奈[フルート]/天野あさ子[ピアノ]
- 曲目=チャイコフスキー:パレエ音楽『くるみ割り人形』より 他

新年の幕開けにぴったりなクラシックの名曲を集めました。フルート2本とピアノの爽やかな音色をお楽しみください。



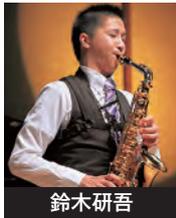
加藤千理 鷹松李奈 天野あさ子

2/14 SAT

『サクソフォンで歌う、ロマンティック・バレンタインコンサート』

- 出演=鈴木研吾[サクソフォン]  
板垣千香子[ピアノ]
- 曲目=越谷達之助:初恋 他

ポップスやジャズの印象が強いこの楽器が、日本歌曲やイタリア歌曲を奏でたら? バレンタインという素敵な日を、様々なロマンを込めた音楽でお贈りします。



鈴木研吾

3/7 SAT

『木管楽器とピアノの響きに包まれて』

- 出演=Ensemble Chouette(アンサンブル シュエット)  
加藤英子[オーボエ]/勝田千尋[クラリネット]/古川真帆[ファゴット]/井上陽葉[作曲・ピアノ]
- 曲目=ストラヴィンスキー[井上陽葉編曲]:『ルチネッタ』他

それぞれの楽器の音色が作曲家・井上さんの手で存分に生かされたプログラム。オリジナル曲を中心とする、楽しく時には切ないハートモニをぜひお聴きください。



加藤英子 勝田千尋

古川真帆 井上陽葉

3/21 SAT

『鈴木智子ピアノリサイタル  
~恋ってどんなものかしら?~』

- 出演=鈴木智子[ピアノ]
- 曲目=モーツァルト:『きらきら星変奏曲』他

春という季節から、「恋」をテーマに名曲を集めたコース仕立てのプログラム。前菜からメインディッシュ、デザートまで様々な恋味をお楽しみください。



鈴木智子

東三河の若手音楽家育成コンサート

PLAT enjoy music!

- 日時=2015年1月4日[日]/2月14日[土]/3月7日[土]/21日[土]  
時間はいずれも14:00開演(13:30開場)
- 会場=PLATアートスペース
- 料金=[全席自由]1公演:500円/通し券:2,000円(特製クッキー付)

好評発売中

市民と創るスケッチ群像劇  
『話しグルマ』

PICK UP!

豊橋発、近藤芳正号は何処へいく?

来春の本番へ向け、いよいよ動きはじめた「市民と創るスケッチ群像劇『話しグルマ』」。今夏のオーディションに合格した34名の出演者を乗せ、構成・演出を担当する近藤芳正さんが向かう先は果たして何処か? 豊橋の「ある家族」を中心に、人と人とのコミュニケーションが描かれる今作品。稽古に先行して、4日間に渡って行われた11月のワークショップの感想を近藤さんに伺いました。

人間は、コミュニケーションなしに繋がれない!

ワークショップでは、ちょっと突っつくだけで皆さん、演劇に対しての好奇心がすごく溢れてきました。僕が今作のテーマとしているのはコミュニケーション。老若男女を問わず、それぞれにコミュニケーションに興味を持っているのがよくわかって、感心しました。

今、台本を書くにあたって、キャラクターにはどんなものがあるのかな? どんなおもしろさがあるのかな?とか、ある種リアリティーのあるモノをいただいたこともあるし、そこから発想したものもあるし、いろいろもっている最中です。それをどういうふうにくるまのお話に結び付けるかを考えていきたい。好きな人がいたり、嫌いな人がいたり、ちょっと苦手な人もいる。人間と人間はコミュニケーションしないと繋がって行かない。じゃあどうやって繋がっていきんだらう? そのところを面白おかしくやりたいと思っています。



近藤芳正

撮影:伊藤華織



撮影:伊藤華織

3/14 SAT — 15 SUN

市民と創るスケッチ群像劇『話しグルマ』

会員先行=1月10日[土] 一般発売=1月17日[土]

- 構成・演出=近藤芳正 ● 構成・演出助手=山田佳奈
- ステージング=小野寺修二 ● 映像=山田晋平
- 出演=オーディションで選ばれた一般市民
- 演出補・出演=大谷幸広、小野寺ずる、憲俊
- 日時=2015年3月14日[土] 14:00開演・15日[日] 14:00開演
- 会場=PLAT主ホール
- 料金=[全席指定]一般:2,000円 ほか

チケットの購入お問合せ

プラトチケットセンター[会員先行・一般発売]

- Web=<http://toyohashi-at.jp>  
ホームページから24時間いつでも予約可能です。\*プラトフランスへの登録が必要です。
- Tel=0532(39)3090
- 窓口=穂の国とよはし芸術劇場 1F Tickets & Informationカウンター

受付時間[Tel・窓口]  
10:00~19:00  
(休館日をのぞく)

割引のご案内 U24:高校生以下

- 若い人にこそ生の舞台を楽しんでもらいたいから、ほぼすべての豊橋文化振興財団主催公演に割引料金を設定しています。
- 料金=U24 [24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額  
高校生以下:一律1,000円
- 購入方法=各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。  
\*一部公演により発売開始日や発売方法が異なります。
- その他=本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。  
座席の指定はできません。要:入場時身分証明書提示。

## 一緒に身体を動かせば、 わかりあえることがある。

講師 南村千里



PLATダンスレクチャー③

『アートへのアクセス—英国生活を通じて—』

ダンスが好きな方はもちろん、観たこともなかった方、身体表現に興味がある方など、ダンスとの新たな出会いの場をお届けしてきたPLATダンスレクチャー。3回目を迎えた今年、イギリスを拠点に活躍する聴覚障がいのあるダンサー・振付家の南村千里さんを講師にお招きして10月24日、研修室（小）で30人の参加者を集めて行われました。翌25日には、愛知大学文学部メディア芸術専攻の授業でワークショップもあり、PLATのファシリテーター養成講座の受講生も参加しました。

### アートはあらゆるバリアを越えて

ダンスは音楽に合わせて踊るもの。なんとなく、そう思い込んでいませんか。実は、講師の南村さんも同じだったとか。「だから、小さいときは踊れないと思っていました」と、南村さんは話し始めます。

生後7か月で聴力を失った彼女は、高校卒業後は美術大学へ。それが、健常者と障がい者で構成されるアミキ・ダンス・カンパニーの創設者、ヴォルフガングさんの日本でのワークショップに参加したことで、ダンスという新たな世界に踏み出します。

「言葉を使わずに身体と一緒に動かすだけでわかりあえる。これがすごい。二次元から三次元のアートに広がった」。

その後、渡英して年齢、性別、国籍、障がい等、一切のバリアなしにアートを楽しみ発信するコミュニティダンスを学び、さらに、プロフェッショナルコンテンポラリーダンスカンパニー

「カンドゥーコ」のダンサーとして活躍。現在はイギリスを拠点にしつつ、世界各国でダンサー、振付家、英語手話による芸術解説者等、幅広く活躍しているそうで、職業のバリアをも超えていく生き方も印象的でした。

講座には、南村さんと同じ障がいを持つ人も参加。残念ながら日本では、まだまだ障がいのあるなしを超える場は非常に少ないのが現状ですが、彼女自身の、そしてイギリス社会の実践は、参加者にもPLATにも大きな可能性を示してくれました。

### 伝えたい思いがダンスになる

続く愛知大学でのワークショップは、まさに「身体と一緒に動かすだけでわかりあえる」を体験する場。参加者も、学生のほか、PLATファシリテーター養成講座7人、さらに前日の講座に参加したろう者の方2人の23名と幅広く、「超える」可能性をさらに開くものとなりました。

冒頭、「私は耳がきこえません。私に話す時は、口をはっきり動かして、読み取れるようにして下さいね」と、南村さん。「OK!」「大丈夫」等の簡単な手話のレクチャーも。あえてプロの手話通訳者を介さないことで、お互いに伝え合う工夫が生まれてくと、納得させられます。

たとえば自己紹介。音声ではなく身体を使った短い動きで表現すると、それはあたかもダンスの振付に。あるいはペアになって互いの身体のあちこちを押すコミュニケーションでは、押された時の力に身を委ねることで徐々に身体がほぐれて、やがて即興のダンスが溢れます。さらに三人一組で三つ編みを編むような動きで前へ進めば、各組ごとに個性あるリズムが見えてくる。音声による言葉を使わず、身体で伝え合う、わかりあう。すると自然に、聴覚以外の感覚をたくさん使って自分の身体、相手の身体に集中する。

聞こえる人、聞こえない人、若者から少年齢の人まで、さまざまな人が集まったことも力となって、伝え合う創造性・想像力が高まり、動きやリズムにもより豊かなバリエーションが生まれた3時間でした。

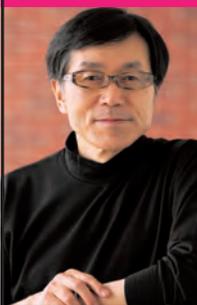


[みなみむら・ちさと] 生後7ヶ月目に聴力を失い、きこえない世界へ。1999年Laban、2003年横浜国立大学大学院修士課程修了。2003年に英国に移住するまで、日本での代表ダンスアートワークに、谷川俊太郎氏との共同制作、千葉大学企画検見川アートプロジェクト2001+2002参加作品、東京藝術大学先端芸術表現科/IMAの非常勤講師としての振付作品などがある。2003年より2006年末まで、英国のCandoCo Dance Companyのダンサー/指導者として参加。現在、フリーランスアーティストとして、ロンドンを拠点に、アジア、アフリカ、欧米など15カ国35都市以上で公演、ワークショップを実施中。傍ら、英国手話による芸術解説者として、テート美術館、ヴィクトリア&アルバート美術館、ホワイトチャペルギャラリーなどで活動する。ロンドンパラリンピック開会式2012に、パフォーマーとして出演。

芸術文化アドバイザー

第8回

## 平田 満のちよこっとエッセイ



『新たな試み』

今年もPLATは様々な活動をしています。古典芸能やシェークスピア、現代演劇にミュージカル、小劇場、落語浪曲などの語り、ダンス、コンサートなど多くの公演が行われ、ワークショップやレクチャーの各種講座も含め、この規模の劇場としては多種多様で充実した内容だと自負しています。

その中の新しい取り組みとして、高校生や市民による演劇があります。第一線の演出家と創る、市民が参加するプロとアマの交流の試み、『転校生』と『話しグルマ』です。

ピナ・バウシュという舞踊家の言葉に、「踊り続けなさい、自らを見失わないように」というのがあります。彼女は一流のプロダンサーに混じり、六、七十代の素人の老人や高校生も同じく、あるいはそれ以上に存在感を持って舞台上でダンスをする、素晴らしい作品を作りました。今回の『転校生』はとて素晴らしい舞台だったと聞いています。参加する市民の皆さんが舞台を通じて新鮮な自分を見つけ、生きる喜びを感じてくださることを願っています。

<p>白井琢也公認会計士事務所 http://www.shirai-cpa.com 電話 0532-5712330</p>	<p>本豊川堂 カブミヤ店 五五二八〇番 アピタ店 五五二八〇番</p>	<p>代表取締役 竹尾 誠 株式会社 竹尾建築設計事務所 豊橋事務所 / 豊橋市平川南町91-2 〒440-0035 Phone: 0532-62-1331 (代) Fax: 0532-62-1332 浜松事務所 / 浜松市東区流通元町13 〒435-0007 Phone: 053-422-3628 (代)</p> <p>医療法人 羔羊会 <b>弥生病院</b> 日本医療機能評価機構認定 渡辺のり子 (東高2回生) 〒441-8106 豊橋市弥生町字東豊和96 TEL (大代) 48-2211</p>	<p>外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科 伊藤 藤 文之 二 院 豊橋市小池町字原下三五 電話四五二八三番代</p>	<p>看板広告 アラキスタヂオ 豊橋市上伝馬町十六 電話 〇五五八六番</p>	<p>医療法人 慈 豊会 大島整形外科クリニック 理事長 大島 照夫 院長 大島 毅 東田町井原三九の七(市電赤岩口駅前) 電話 六二一五五一(一)番代</p>	<p>医療法人 赤岩病院 光生会病院 電話 六二一五五番</p>	<p>YMバレエ カンパニー ハートフ 21 8610</p>	<p>有限会社 魚 伊 電話 52-5256</p> <p>本と文具なら <b>精文館書店</b> TEL.54-2345</p>
---	--	---	--	---	--	--	---	---

**竹内産婦人科**  
産婦人科  
婦人科(不妊治療)  
豊橋市新本町23  
豊橋 竹内産婦人科 検索

氷各種販売 / 冷蔵倉庫業  
**大正冷蔵**  
本社 豊橋市湊町117  
TEL: 0532-52-1161  
FAX: 0532-52-8015

COFFEE harobaro  
コーヒーハロバロ  
市民文化会館内にOPEN!

安心・安全な地下駐車場  
**パーク500**  
プラト主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。  
ソウの親子の看板が目印

音楽集団・クラブ  
**KAIHO** パートII  
KOTARU DAIGOLAW  
NORI-G 法務 NOBU  
財務 倫理 MATSUO  
環境 整備  
TAKEDA photo  
壺屋弁当部 TEL: 0532-31-1131 FAX: 0532-31-1133

株式会社 谷山建築設計事務所  
豊橋市西羽田町一八三  
http://taniyama-archi.com

グロトリアンピアノ地域特約店  
**白羽楽器株式会社**  
電話 0531-46413015  
調理と製菓の美しい資格。  
豊橋市八町通二丁目三十二  
TEL 五二二八〇九

気まぐれコンサート  
事務局 / 0532-62-9259 (小川恵司)

井上皮膚科クリニック  
☎ 0532-55-7007  
診療時間  
月・火・木・金 10:00~13:00 16:00~19:00  
土 10:00~14:00  
休日=水・日・祝  
愛知県豊橋市向山町字中畑13-1  
マイルストーン1F

am.10:00~pm.5:00  
**茶屋 るる**  
甘味処 抹茶・コーヒー  
あんみつ・豆かんでん  
中岩田5丁目6の4 TEL.63-0202

塩之谷整形外科  
院長 塩之谷 昌  
副院長 塩之谷 香  
豊橋市船田町100番54  
☎ (0532) 25-2115 (代)

共和印刷株式会社  
豊橋市小池町36番地の1  
TEL 46461328  
FAX 46132851

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科  
医療法人 大岩整形外科・皮フ科  
院長 大岩 俊久  
豊橋市大橋通二丁目二五  
電話 五五二一〇〇

高誠堂  
伝統的工芸品豊橋筆  
書道用品専門店  
豊橋市呉服町四拾四番地  
電話 五二一五五一

創業文政年間  
日栄 ぎく宗  
豊橋市新本町40  
電話52-5473番

豊橋名産  
傘ちくわ  
練物 専 家  
なりの花でん  
コラフロント ホテルアークリッシュ1F

**プラットフォーム募集中 [入会金・年会費無料]**

特典 1 公演情報をメールでご案内します。  
特典 2 インターネットでチケット予約ができます。  
特典 3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。

登録方法  
●WEBで登録 [穂の国とよはし芸術劇場HP]  
http://toyohashi-at.jp  
●携帯で登録 https://piagettii.e-get.jp/online-ticket/de/  
●窓口で登録  
穂の国とよはし芸術劇場 Tickets & Information カウンター

**チケット購入案内**

◆プラットフォームセンター [会員先行・一般発売]  
Web=http://toyohashi-at.jp ※プラットフォームへの登録が必要です。  
Tel=0532(39)3090  
受付時間 [Tel・窓口]  
窓口=穂の国とよはし芸術劇場1F 10:00~19:00  
Tickets & Information カウンター (休館日をのぞく)

◆その他 [一般発売・公演によって販売所は異なります]  
チケットぴあ / カルミア2Fサービスセンター  
ほの国百貨店6Fプレイガイド など

**穂の国とよはし芸術劇場 PLAT**  
〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地  
Tel=0532(39)8810 [代表] http://toyohashi-at.jp  
開館時間=9:00~22:00 休館日=第三月曜・祝日の場合は翌日・年末年始。  
豊橋駅 (JR東海道新幹線・東海道本線・名古屋鉄道)、新豊橋駅 (豊橋鉄道渥美線) 直結。豊橋駅南口から徒歩3分。※駐車場はありません。公共交通機関、お近くの公共駐車場等をご利用下さい。

# PLAT CALENDAR

## 1 JANUARY

- 3 SAT** 手筒火花・短編ドキュメンタリー「THE TOWN OF HAND CANON FIREWORKS (仮題)」豊橋試写会 PLATアートスペース
- 4 SUN** 東三河の若手音楽家育成コンサート PLAT enjoy music! trio FlaP 『trio FlaP New year Concert』 PLATアートスペース
- 8 THU—13 TUE** 第95回 華墨会小品展 ほの国百貨店 9F画廊
- 9 FRI** 第727回 邦楽鑑賞会 豊橋市民文化会館
- 10 SAT—11 SUN** 『海をゆく者』 PLAT主ホール
- 11 SUN** 豊橋商業高校吹奏楽部 定期演奏会 PLATアートスペース
- 12 MON** 伊藤民謡会 創立45周年記念 第50回 チャリティー民謡大会 豊橋市公会堂
- 15 THU—17 SAT** 豊橋演劇鑑賞会第246回 劇団スイセイ・ミュージカル公演『ミュージカル楽園』 PLAT主ホール
- 15 THU** 「食」に関する講演会『スローフードなまち・豊橋～改めて考えよう! 作る楽しみ、食べる楽しみ!～』 PLATアートスペース
- 17 SAT** コンセール・ジュウェ「Piano Concert」 PLATアートスペース
- 17 SAT—18 SUN** 東三河の演劇人が結集してお贈りする「いとしの儂」上演委員会プレゼンツ『いとしの儂』 ハートフルホール
- 18 SUN** 豊橋落語天狗連『新春天狗連名人寄席』 PLATアートスペース  
第14回 年令別歌謡選手権大会 豊橋市公会堂
- 23 FRI** 新春文化団体交流会 ホテルアーグリッシュ豊橋
- 25 SUN** 第18回 つながりあそび・うた実技研修会 アイブラザ豊橋2F小ホール
- 24 SAT—25 SUN** 第6回 長坂フサ子社中花展 豊橋市民文化会館
- 31 SAT** CRAZY KEN BAND SPARK SHOW 2015 ～泣きながらツイスト～ PLAT主ホール
- 31 SAT—2/1 SUN** ダンス・スペース 平山素子「POISON ～シェイクスピアを喰らう～」 PLATアートスペース

## 2 FEBRUARY

- 1 SUN** 東京フィルハーモニー交響楽団演奏会 ライフポートとよはし  
中学生と消防音楽隊のジョイントコンサート PLAT主ホール
- 5 THU** 豊橋商工会議所 女性会 “三河サミット” PLATアートスペース
- 6 FRI** トリオ フレスカ(ピアノトリオ・ピアノソロ演奏会) PLATアートスペース  
第728回 邦楽鑑賞会 豊橋市民文化会館
- 7 SAT** 第二回桜丘高等学校ダンス部自主公演“ROCK STEADY” PLAT主ホール
- 11 WED** フェスティナ・レンテ合奏団 ヴァイオリン演奏会(発表会) PLATアートスペース
- 14 SAT** 東三河の若手音楽家育成コンサート PLAT enjoy music! 鈴木研吾  
『サクソフォンで歌う、ロマンティック・バレンタインコンサート』 PLATアートスペース  
志多ら全国ツアー「蒼の大地～今、ひとつになりて、行かん」 PLAT主ホール
- 15 SUN** 下垣真希チャリティートークコンサート ロワジールホテル ホリディーホールD
- 18 WED—22 SUN** 第46回 職場総合文化展 豊橋市民文化会館
- 21 SAT** ロイヤルウインドオーケストラ 第4回定期演奏会 PLAT主ホール
- 22 SUN** 音楽を愛する会in多米「フラダンス・ベリーダンス・ジャズダンス発表会」 PLATアートスペース  
第23回 中日新聞社杯歌謡選手権大会 豊橋市公会堂  
第24回 豊橋竹道会尺八演奏会 カリオンビル六階ホール
- 28 SAT** 愛知チャレンジド・クリエイティブ・アワード 第5回「とよはし音楽祭」 豊橋市民文化会館

[表紙写真] 平山素子さんのアトリエにて。白を基調としたスペースは、何ものにもとられないさまざまなイメージを生み出しそうです。

企画・発行＝公益財団法人豊橋文化振興財団

編集＝森 絹江

デザイン＝松吉太郎デザイン事務所

写真[表紙]＝谷古宇正彦

平成26年12月 発行11号 [隔月発行]

## 穂の国とよはし芸術劇場

TOYOHASHI ARTS THEATRE

〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地

Tel 0532(39)8810[代表] <http://toyohashi-at.jp>